

平成21年度 学校評価

— 学校関係者評価のお願い —

- | | | |
|---|-------------------------|-----|
| 1 | あきた型学校評価システムの進め方 | p 1 |
| 2 | 平成21年度 新屋高等学校の経営方針 | p 2 |
| 3 | 平成21年度 「自己評価」・生徒指導・地域連携 | p 3 |
| | ・学力向上・進路指導 | p 5 |
| | ・特別活動の充実 | p 7 |

参考資料 「生徒アンケート結果」・「保護者アンケート結果」
教職員による「平成21年度 教職員アンケート集計表」

学校関係者評価委員 各位

昨年度から、法律の改正により「学校評価」の仕組みが変わりました。

これまで学校では自校の教育活動の課題を探り、改善に向けた取組みを行うため、教職員による「学校評価」を実施してきました（新しい「自己評価」に相当）。

昨年度から学校が実施する「自己評価」に対し、学校関係者評価委員からも評価（今回お願いする「学校関係者評価」に相当）をいただき、その両方を公開することになりました。

その趣旨は、学校は自校での教育活動に対する説明責任を果たし、学校関係者には学校に対して今まで以上のご理解とご協力を仰ぐことにあります。

本校で実施した「平成21年度 自己評価」は3ページ以降に掲載しています。

本校における、（重点）目標や目標達成のための方策、また目標実現のための具体的な取組状況、達成状況、自己評価などについて、皆様の忌憚のない評価・ご意見をお寄せください。お忙しい中、お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

裏面にある回答用紙「学校関係者評価と意見」欄にご記入の上、この用紙を同封の封筒に入れて郵送くださるようお願いいたします。

なお、参考として、「生徒アンケート結果」・「保護者アンケート結果」、教職員が本校の教育活動全般について行った「教職員アンケート集計表」も一緒に綴じてあります。

・ 回答用紙 ・

※ 1月15日（金）まで郵送してください。

◎ 生徒指導

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)

◎ 学力向上

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)

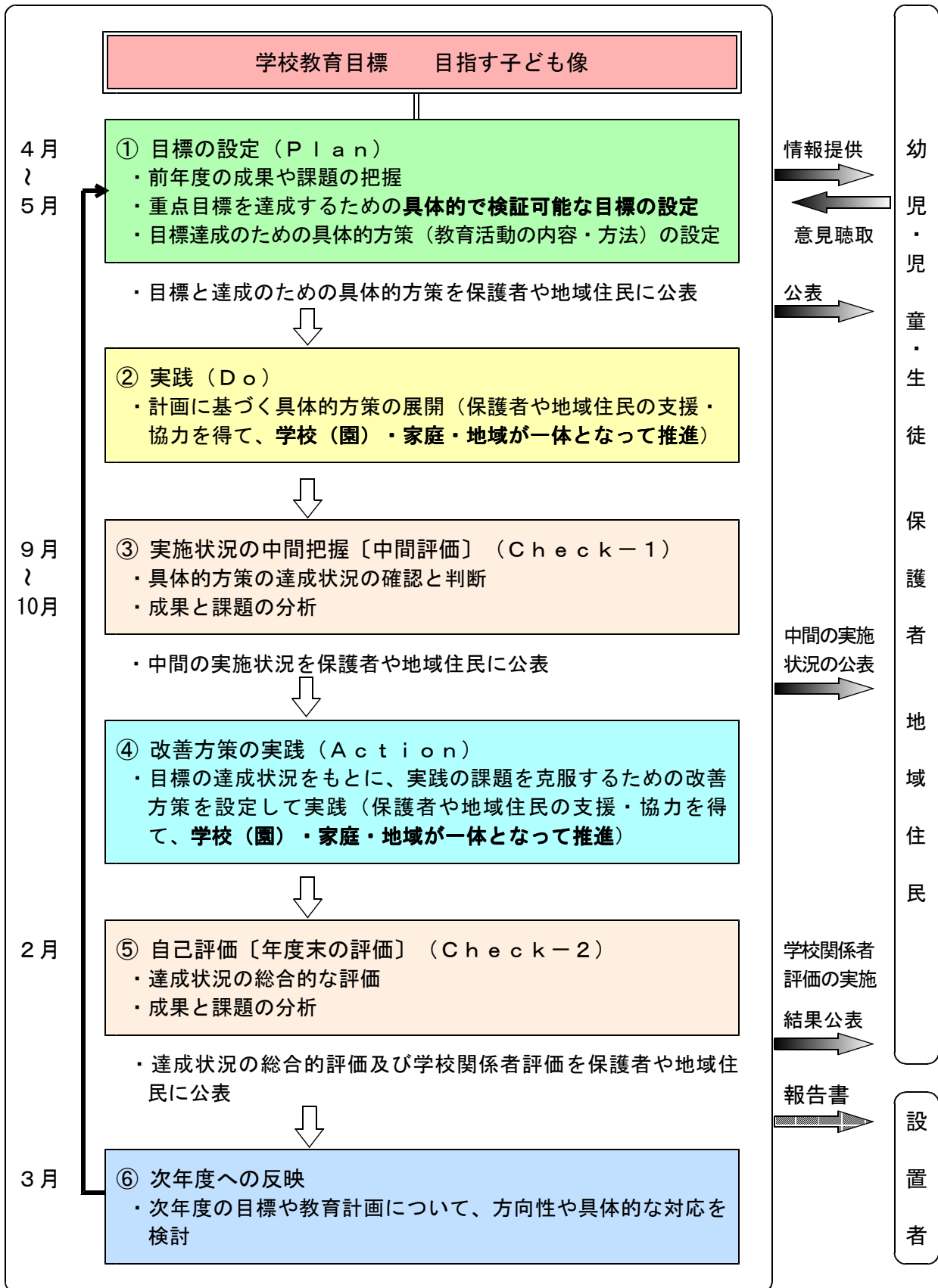
◎ 特別活動の充実

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)

評価基準	A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。
------	--

ご協力ありがとうございました。

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成21年度 新屋高等学校の経営方針

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、人格の完成をめざし真理を希求する心身ともに健康で、社会の変化に主体的に対応できる有為な人材を育成することを目標とする。

2 教育方針

- I 基本的な生活習慣の確立 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成
- II 学力の向上 目的意識と高い学習意欲を持ち、不断の向上をめざす人間の育成
- III 特別活動の充実 健康な心と身体を養い、社会的連帯性と創造性を持ち主体的に社会に対応できる人間の育成

3 本年度の経営方針

- I 教育目標実現のため「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律・自立できる人間の育成を図る」を本校教育の基本的な立場とする。

II 重点目標（事項）

- 1 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。
 - ① 地域の学校であることを自覚し、地域の人たちと接することのできる生徒を育成する。
 - ② 挨拶、ルール・時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
 - ③ 家庭と連携し朝ご飯をしっかりとり、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
 - ④ 危機意識を持って危険回避を常に心掛ける生徒、何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動できる生徒を育成する。
 - ⑤ SCや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導を実践できる体制づくりに取り組む。
- 2 学力向上を図る学習指導を強化し、能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、主体的に学習する生徒を育てる。
 - ① 評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
 - ② 朝学習を10分間とし、心を落ち着かせて授業に取り組むことで、学力向上につなげる。
 - ③ ベル着・ベル授業を励行し、授業の密度を高める。
 - ④ 教科学習オリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
 - ⑤ 授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習の在り方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まで粘る精神を養う。
 - ⑥ 「休養日」の設定や、部活動時間の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
 - ⑦ 進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、生徒の多様な進路希望に対応する。
 - ⑧ 「総合的学習の時間」の在り方を見直し、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間とする。
- 3 生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
 - ① 生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるよう指導する。
 - ② 日々の練習をとおして、主体性や協調性、最後まで頑張る気力・体力を養う。
 - ③ 新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分に尽くせるよう、生徒の自覚をうながすとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
 - ④ 校内の環境美化の促進、学級減を踏まえた教室配置の見直しなどで、学習に相応しい環境づくり、利用しやすい施設の整備・改善に取り組む。

※ここに示したのは年度当初、校長が示した本年度の新屋高等学校の経営方針（教育方針）をより具体化したもので、一部PTAなどで校長より保護者の皆様にはお話ししたところです。

平成21年度 学校評価

— 学校関係者評価 —

平成21年度 「自己評価」・生徒指導・地域連携	p 2
・学力向上・進路指導	p 4
・特別活動の充実	p 6

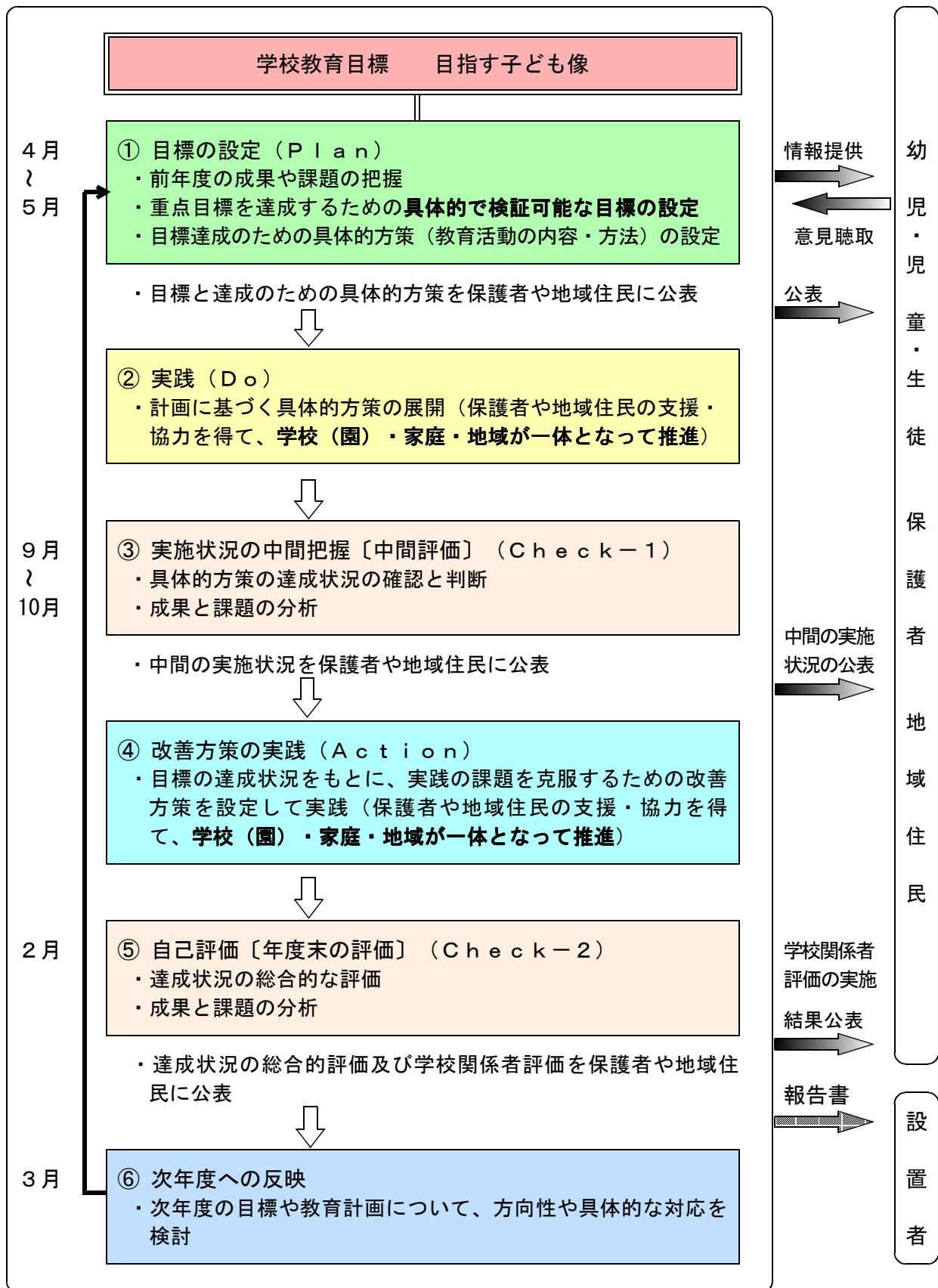
皆様へ

今昨年12月にお願いしました「学校関係者評価」については「新高通信」第7号で速報としてご報告したところです。

これらを受け、自己評価及び学校関係者評価に基づいた取組みを行うため、別紙のような「改善策」にまとめました。

次年度は、この改善策を実現すべく、全職員が一丸となって取り組む所存です。今後とも、本校教育に対するご理解とご協力をお願いいたします。

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

評価領域	生徒指導・地域連携
------	-----------

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	これまで重点的に基本的生活習慣の確立に取り組んできた。特に整容面や遅刻防止で一定の成果を上げている。しかし、目的意識が曖昧なまま入学し学校生活に対する意欲に欠ける生徒、家庭学習が定着しない生徒、しっかりとした挨拶ができない生徒、自転車の乗車マナーで地域から苦情を寄せられる生徒等、課題も見られる。	
具体的な目標	①挨拶の励行 ②悩みごとへの対応 ③危険回避と事故防止の呼びかけ ④学校と家庭との連携 ⑤地元の学校としての自覚を持った行動	
目標達成のための方策	①新高生としての自覚・・・整容面で全県一との自覚と責任感を持たせる。 ②登下校指導や整容指導・・・日頃からくり返し指導を実施する。 ②挨拶の励行・・・目を見て、大きな声で。 ③朝学習・・・心を落ち着かせ、授業に臨む。 ④面接・・・生徒理解を目的とした面接週間、SC（スクールカウンセラー）の積極的活用への呼びかけ（生徒の抱える悩みごとに個別に対応）。 ⑤事故防止・・・集会や各種講習会などの開催による指導の徹底。 ⑥地域との接し方・・・「地元の学校」であることの自覚を持たせる。	
具体的な取組状況	①全職員による年4回の昇降口指導をはじめ、毎日校長以下職員が昇降口に立って遅刻防止や挨拶励行を指導した。 ②昇降口指導はもとより、2ヶ月に1回、学年単位の整容指導を実施する等、とりわけ整容面での指導に重点をおいた。 ③始業前10分間の朝学習が全体的に定着してきた中で、朝学習の時間を確保し、落ち着いた気持ちで授業に臨めるようにした。 ④4月の面接週間に加えて年1回の保護者面談を設定し、より深い生徒理解や進路指導に取り組んだ。SCの来校日を教室に掲示する等、周知を図った。 ⑤資料配付や臨時集会、教室等でモラルやマナー指導の徹底を図った。また、交通マナー指導のために、保護者とともに長期的な通学指導を行った。 ⑥地域の祭りや植樹活動への参加や学校祭での仮装行列や清掃ボランティア活動を通し、地元と触れあう機会を増やした。	D
達成状況	①②少しずつ成果が出ているが、特に挨拶に関しては達成度合いが、まだまだ不十分である。 ③10分間の朝学習は全学年で定着してきた。 ④1学年は主に新入生理解のため、2・3学年は主に進路実現に向けた意識喚起のため活用した。またSCに対しては、かつてほどの「警戒心」や「違和感」は薄れてきているように思われる。 ⑤さまざまな機会を見つけて生徒に指導しているが、形として見えるまでには至っていないのが実情である。 ⑥これまでのところ、それぞれの活動をとおして地元とのふれあいの機会・場が増えている。また『新高通信』の発行で「新高の今」「頑張る新高生の姿」を発信し、少しでも情報が保護者や地域に周知できるよう取り組んでいる。	

自己評価	(評価) B	(根拠) 整容指導・通学指導、具体的な活動は良くなされている。昇降口の指導では、挨拶しない生徒や声の小さい生徒もいる。生徒と職員の感覚にギャップがある。挨拶の大切さを今以上に浸透させる必要がある。生徒の授業態度や姿勢という面では、学校としての共通理解と指導は十分とは言えない。また校外での自転車マナーについては、依然として注意される生徒が見られる。校内外を問わず、生徒の責任と自覚をいかにして持たせるか、まだ課題が残る。スクールカウンセラーについては、良く活用されている。悩みを抱えている生徒が多いこともあって、相談できない生徒もいると思われる。相談専用のメールアドレスの設置も必要である。地域の行事への参加については、これまでになかった取組みも増えたが、継続できるかどうかは教職員を含めた学校全体の課題であろう。一過性に終わらせないためにも「地元の学校」という意識の定着に取り組む必要がある。	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

- A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 整容面・挨拶、どちらも生徒指導上欠かせない大事なテーマであり、学校側の努力も十分伝わってくる。整容に関しては、目に余る生徒は見あたらないので評価できる。挨拶は全ての基本なのでしっかりと身に付けていただきたい。地域やPTAなどの協力により行われた通学指導は、以前はルールを守らない生徒も見られたが、最近では、ほとんど危険に思われることがなく良い方へ変わったと思う。外部講師による「挨拶の大切さ」「交通事故の経験談」等で全生徒に訴えるものも効果的と考える。また、スクールカウンセラーに相談しやすい状況にする為のメールアドレスは有効と考える。生徒と職員の感覚ギャップ、職員間の温度差は常に問題となるが、職員の無関心や意識の低下による温度差であるとすれば問題である。生徒指導は、職員の熱意と継続の努力が求められるものがあるので、がんばって欲しい。地域の行事等への参加で、地域と触れ合う機会が増えたことは、非常に好ましい。今後も継続してもらいたい。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>本校の生徒指導は、整容・昇降口・通学路指導などマンネリ化をしないように継続して実施している。職員もかつてのままでなく、また生徒の質も確実に変化している。今の生徒に相応しい指導の在り方がどうあるべきかは検討を要する課題である。今後、もう一度原点に戻り礼儀（挨拶、言葉使い等）など、社会に通じる生徒を育ていきたい。新高の生徒指導部を中心に、全職員で生徒観、基本となる指導方針、具体的な手立て、検証の方法などでの職員間の統一を図り、全職員が同じ目線で指導できる体制づくりに取り組みたい。また、保護者、地域、関係機関など、今まで以上に連携を密に情報発信し、協力を願うことも大事である。</p> <p>具体的な提言 ・外部講師による「挨拶の大切さ」の講話 ・PTAとの共催による交通安全指導 ・教職員研修の実施（年2回） ・日吉神社山王祭、やまはげまつり等への参加 ・新高通信 HPの充実</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	学力向上・進路指導
------	-----------

重点目標	学力向上を図る指導を強化し、能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、主体的に学習する生徒を育てる。	P
現 状	これまでの学校評価で教育課程や進学対策などと並び家庭学習の定着や朝学習が重点課題とされてきた。朝学習に関してはある程度定着の感があるが、家庭学習については、なかなか有効な手立てが見つからない。しかし、基礎学力の定着と学力の一層の向上は進路の如何を問わず求められるところであり、特にここ数年、進学志望者が増えており、確実な進路実現のため、本校にとって喫緊の課題といえる。	
具体的な目標	①授業改善 ②家庭学習の習慣付け ③部活動との両立 ④進路意識の高揚	
目標達成のための方策	①授業改善・・・授業評価、ベル出欠・ベル授業の励行、分かりやすい授業や授業力向上のための研修の充実、授業評価の実施。 ②家庭学習の習慣付け・・・教科学習オリエンテーションの充実等で自学できる態度・習慣を培う、授業に活かせる宿題・課題の工夫。 朝学習による自学・自習の定着。 ③部活動との両立・・・学習時間や「休養日」の確保。夏・冬休み始めの「学習強化期間」の実施。 ④進路意識の高揚・・・キャリアガイダンス、「総学」の見直し、進路講演会・進路別ガイダンス等の実施。適宜担任による二者・三者面談など進路実現に向けた面接の実施。1年生対象に「職業人インタビュー」の実施。模試の事前事後指導の徹底。進路通信の発行。学習時間調査の実施。	
具体的な取組状況	①授業改善に結びつくような評価項目に基づいた授業アンケートを実施、授業に集中するようベル着指導の徹底を図った。 ②1学年全体への教科オリエンテーションの実施。及び2,3年生に対しての教科担任による教科オリエンテーションの実施。主要5教科の10分課題の実施。 ③火曜日に週1日の休養日、「ももさだの日」を設定した。「学習強化期間」の実施。 ④進路講演会や進路別ガイダンス、校外施設での補習を実施した。三者面談に関しては初めて年間計画に明記して実施。部活動に所属している生徒も参加できるように「ももさだの日」に模試対策補習(1年生)。他、上記方策の実施。	D
達成状況	①授業アンケートについては結果を授業改善にどう生かすかが課題。また指導主事訪問の際、授業改善が進路結果に結びついていないとの指摘があった。 ③ある程度定着はしてきたが、土日のいずれかを休養日としたため、部活動を実施する場合も多い。 ④各学年を対象とした進路ガイダンスを実施した(学年単位のみならず全生徒対象の進路講演会も企画できないか今後の課題である)。また秋季休業を利用して、1・2年生による秋田市内5大学のキャンパス訪問を計画したが、インフルエンザのため中止した。	

自己評価	(評価) B	(根拠) 授業改善においては、ベル出欠ベル授業はほぼ定着の感があるが、「呼名、返事、起立、大きな声で答える」ことについては今後も継続して指導していく必要がある。家庭学習の習慣づけについては何年も前からの課題である。生徒アンケートによると、ある程度家庭学習の習慣づけも出来てきているように見えるが、学習時間調査では、家庭学習の時間がまだまだ不足している結果が出ている。一層の家庭学習習慣の定着を図る必要がある。部活動との両立は、週1日の「休養日」や長期休業中の「学習強化期間」を設定し、学習時間を確保させている。「休養日」はある程度機能しているものの、「学習強化期間」はまだまだ改善の余地を残している。進路意識の高揚は、様々な進路関係の行事を企画し、啓蒙に努めており、生徒のアンケート結果からもその効果が表れてきていると読み取れるようになって来た。しかし、教職員アンケートでは、「家庭学習の定着」、「キャリア教育・生き方指導」の不足が指摘されている。教師のほうがより厳しく現状を分析しており今後の検討課題となった。	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 落ち着いた授業の様子が想像されるが、その結果がなかなか目に見えてこないもどかしさを感じる。家庭学習を自ら進んでするという意欲に欠けていると思うので、その動機付けが今後必要と考える。進路の早期決定も動機付けになると思うので、入学当初よりHR、面接等によりキャリア教育、生き方指導を含めた内容の指導を徹底していければ良いと思う。また、進路についての情報提供も大いにしてもらいたい。長期休業中の学習強化週間は非常に有効だったと思うので、継続してもらいたい。毎週火曜日に「ももさだの日」として部活動の休養日を設けているが、徹底されていないと感じる。	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>授業改善は徐々に図られてきているが、まだまだ改善の余地がある。今後、研究授業の充実及び互見授業をすることによって授業力を高めていきたい。家庭学習の習慣付けはかねてからの課題であるが、なかなか定着させることができていない。学習しなければいけない環境を作るとともに、動機づけにより内面からの啓蒙方法を考えていきたい。部活動との両立は、「ももさだの日」や長期休業中の学習強化期間の徹底等を行うことにより対応したい。進路指導に関しては、進路指導部を中心とした指導体制を整えてきたが、より一層3年間を見通した計画的な指導を進めたい。学習環境の整備は事務を中心に進めてきているが、今後は生徒・保護者の要望を聞き改善をしていきたい。</p> <p>具体的な提言 ・ 毎回宿題を出し、観点別評価に算入する ・ 他校との研究授業（互見授業）の実施 ・ 「ももさだの日」「学習強化期間」の活用（補習、自学） ・ キャリアガイダンス、「総学」の内容の見直し ・ 模擬試験の全員受験（進路意識を高める・データの蓄積）</p>		A
-----------------------	---	--	---

評価領域	特別活動の充実
------	---------

重点目標	生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。	P
現況	本校は創立26年目の学校である。昨年度より、生徒が新高生としてのアイデンティティを共有し、母校に対する誇りや意識を高めるには部活動が重要との認識から、特に部活動の活性化に取り組んできた。とりわけ文化部では吹奏楽部や文芸部、運動部では野球部・サッカー部・弓道部など全国・全県での活躍が期待され、そのことが本校の特徴の一つとして校内外で認識されている。	
具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達	
目標達成のための方策	①生徒会活動の充実・・・生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるよう指導する。 ②部活動の活性化・・・全県はもとより、東北・全国レベルで活躍できるよう、予算面も含め、学校全体として応援体制を整備する。 ③心身の調和した発達・・・勉学にしろ部活動にしろ、高校生としての本分を十分に尽くせるよう、生徒個々の自覚を促すとともに、それを支える学校としての支援体制を整える。	
具体的な取組状況	①生徒会長を中心に、執行部による長期を見越した体制づくりが進んだ。また地域の祭りやリーダー研修会に積極的に参加したり、壮行会等で司会進行を務めるなど活動の充実を図った。 ②各部顧問を中心に練習計画（遠征・合宿を含めた）の工夫・充実や具体的目標の設定、外部コーチの積極的活用、部員の意識改革等により、一層のチーム力向上・強化に取り組んだ。 ③「休養日」「学習強化期間」により学習時間確保に努めた。また限られた予算の中で、部活動後援会費や特別助成費等で、より活動しやすい環境づくりに努めた。	D
達成状況	①各行事について委員会ごとに役割分担をし、運営をスムーズに行っている。日吉神社の祭礼、1年生の仮装行列、リーダー研修会への参加など例年と同様に、執行部が中心となって活動している。オープンスクールや列車指導、高文祭等では生徒会執行部の活躍が目立った。 ②今年度、全国大会には弓道部・剣道部・水泳部・文芸部、東北大会（新人戦を含め）には弓道部・陸上部・水泳部・テニス部・バドミントン部・吹奏楽部が出場するなど成果を上げた。 ③昨年同様、予算の効率的な配分に取り組んだ結果、各部の強化、大会参加のバックアップ体制が可能となり、またウエイト器具など設備の充実も図ることができた。	

自己評価	(評価) B	(根拠) 本校の教育目標の一つである部活動の活性化について、練習計画の工夫・充実や具体的な目標の設定、さらに外部コーチの積極的な活用などチーム力の向上・強化に取り組んできた。全国大会・東北大会へ出場する部活動が確実に増えてきていることから引き続き評価できる。一方、昨年度課題であったスクール・アイデンティティの確立、あるいは母校意識の喚起という観点では、僅かながら改善がされてきている。全校応援練習を設けたことで、甲子園予選やサッカー選手権予選では学校が一体化し応援活動を行うことができた。チアガールなど応援スタイルにも新たな工夫がみられる。しかし、校内に応援団組織がないため、本校独自の応援様式が確立できていない。チアガールについても今年度は有志によるものだったので、今後継続的に行えるかどうか課題である。	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 「生徒会活動、運動部、文化部いずれも頑張っているし、学校側の指導も含め成果は上がって来ている。ただ、総じてあと一步のところで止まっている。」「地域では運動部の活躍に注目している。地元の学校として、認知度を高め定着させる一番の近道として今後の活躍を期待する。」「部活動強化のためには、専門家をつれてくるなど指導体制の充実も大切だと思う。」「応援団の結成と規律のとれた応援スタイルの確立を希望する。」「野球応援時のチアガールはとても良い印象を与えた。今後も継続を望む。」「一部、心身ともに健全な生徒像からかけ離れてしまったのは残念である。」など、本校の頑張りを期待する叱咤激励と受け止めた。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>今年度も全国大会・東北大会に多くの部活動が出場することができ、部活動の活性化が図られている。野球・サッカーの全校応援では例年以上に盛り上がりを見せ、学校を一体化させることができた。日吉神社の祭礼、新屋南やまはげなどのボランティア参加、また、学校祭での仮装行列など地域とのつながりにも力を入れてきたことで、地域の本校に対する見方や在校生・卒業生の母校に対する意識が変わってきている。次年度以降も学校活性化のため、引き続き予算面、環境整備などに学校として努めていきたい。今回の評価でも昨年度同様に、応援体制の在り方が課題とされたが、吹奏楽部と連携しながら、今後とも具体的な方向に向け取り組んでいきたい。また、健全な心身を育成すべき教育の場にあってはならない事態が起り、多大なご心配をおかけしましたことを真摯に受け止め、学校態勢と指導体制の見直しを図り、今後繰り返すことのないよう努めていきたい。</p> <p>具体的な提言 ・ 応援委員会の強化 ・ 運動部の複数顧問・外部コーチの積極的活用 ・ 「ももさだの日」を完全休養日とする ・ 予算の効率的な配分 ・ 挨拶、礼儀、整容等生活態度の育成</p>	A
-----------------------	---	---